

47都道府県は社会科の九九!?—地図帳の効果的な活用のしかた—

東京都 公立小学校教諭

1. はじめに

4年生になると地図帳が配布されるが、他の教科書のように順を追って使用されるものではないし、あまり使われることのないままに過ぎてしまうこともあるようである。そこで私のクラスでの地図帳の活用のしかたを振り返り、一つの提起として以下に記述していきたい。

2. 地図帳は社会科で使うもの!?

高学年を担当すると、地図帳は社会科のある時間に持ってくるものという認識をもっている子どもが多く、中にはほとんど地図帳を開いた経験のない子どももいる。地図帳は社会科の教科書の付属品のようなもので、忘れてもあまり困ることもない持ち物となっているのが現状のようである。

私はそうしたことが常識になっている子どもたちに、地図帳は毎日持ってくるものの一つとするように話すことから始める。それはどの教科であれ、日本国内はもちろんのこと諸外国でも地図で大きな位置を確認した方がよいことがしばしばであるからである。

3. 私が社会科の九九と考えること

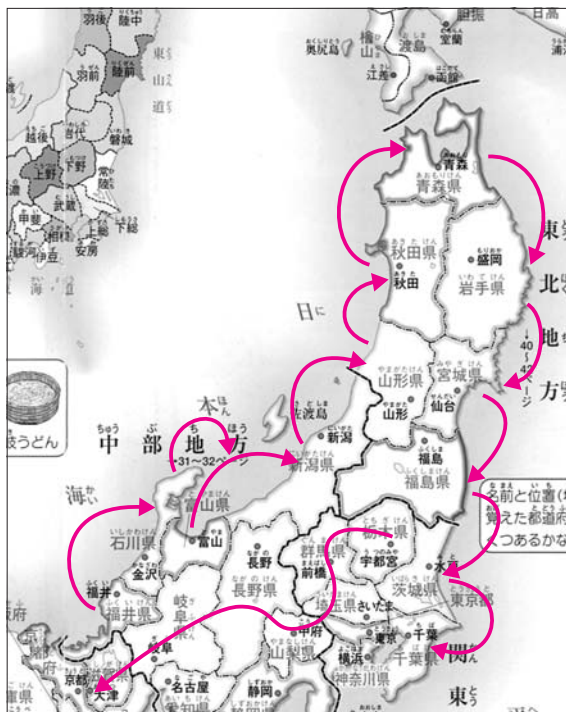
算数では2年生で九九を一生懸命にくり返し学習し、定着すればその後の算数そして中学校以降への数学にもつながるのは当然である。私はそれと同じように、47都道府県の名前と位置が社会科の九九のようなものであると考えている。4年生以上を担当したときには、時間をかけて最低47都道府県の名前と隣接する都道府県の位置関係を頭の中に入れてしまうようにしている。

その方法として、私は地方ごとにやるのではなく、まずは本州の北の端青森県または西の端山口県を起点として、時計回りまたは反時計回りに海沿いに隣接する県を言うていくのである。

「青森県の隣は岩手県です」「岩手県の隣は宮城県です」……といった具合である。

最初のうちは地図帳を見ながらクラスの席順に次々と言うていくことからスタートし、何回かくり

返すうちに地図帳を見なくても少しずつ言えるようになっていけば一歩前進である。本州には海に面した都府県が26あり、これを頭に入れば半分以上できたことになる。ここまでをていねいにやったころには、興味のある子は他の都府県にも目をむけていくことはまちがいない。



帝国書院『小学生の地図帳（初訂版）』p.2

次に本州の中で海に面していない八つの県を関東地方（栃木・群馬・埼玉）、中部地方（山梨・長野・岐阜）、近畿地方（滋賀・奈良）の順にあるいは逆順に注目させ、頭に入れさせていくのである。

この段階で47都道府県のうち34が頭に入ったことになるのでゴールは近い。

あとは子どもたちのようすをみながら、四国は香川を起点に時計回りもしくは反時計回りとか、九州は福岡を起点に、といった順番のルールを決めていけば、無理なく楽しく頭に入れられる。

私は以上述べた方法で47都道府県の名前と位置を頭の中でいえることこそが、社会科の九九と考える最低ラインなのである。これさえ頭に入れば社会科での学習はもちろんのこと、国内のニュース・身

近に見聞きする都道府県に対して、大まかな場所のイメージができるのである。

4. 地図帳の旅

その他、地図帳活用のしかたとして、地図上を指で旅していく方法がある。たとえば東京駅を起点にして東北（山形・秋田）新幹線、上越・長野新幹線、東海道・山陽新幹線に沿って指をあてながら進んでいくのである。途中でみつけたものを発表しあったり、県を超えるごとにそのことを確認したりするのである。

何年前か、4年生のある子が家にもどり次のようなことを話したことを保護者会で聞いた。

「お母さん、今日クラスみんなで山口にふぐを食べに行ったんだ……もちろん地図帳の旅だけどね、とても楽しかったよ」

何ともほほえましい光景だと感じるとともに、たとえ食べたつもりではあっても、子どもの想像力をかきたてることにつながったのではないかと思っている。

5. ゲームの要素を入れて楽しく

ただ暗記しなさいという興味もわかないし、楽しくないと子どもは動かないものである。したがって“無理なく”、“たゆまなく”、“少しずつ”をモットーにして、ゲームの要素を取り入れるなどして楽しいと思わせることが大切である。

クラスみんなでやっていく楽しさを感じてくれば、子どもの方から「都道府県のゲームやろう」とか「地図帳の旅がまたしたい」などといった声があがるのはまちがいない。子ども同士が休み時間や給食準備中に地図帳を取り出して、友だち同士で問題を出し合うような姿がみられたらほっておいても覚えていくものである。

6. 空間認識ができれば白地図へ

47都道府県の位置と名前だが頭に入ったら、さらに白地図などを活用して、地図上でも任意の都道府県がいえるようにしたいと考える。しかしそれはさほどたいへんなことではないようである。ただ私の経験ではそれを急ぎすぎて漢字で正しく書くことも含めて要求すると、楽しさよりもやらされているという意識が強くなり、結局長続きせず覚えられな

いままにおわってしまう可能性が高い。つまり入口のハードルは低くしておいた方がクリアしやすいということである。

7. 都道府県庁所在地

都道府県名とセットにして都道府県庁名を覚えていく方法もあるだろうが、私は段階をわけた方が子どもには負担も少なく、頭に入れやすいと考える。いいかえると47都道府県の位置と名前がわかってから、ステップアップとして都道府県庁所在地を取り上げるのである。

こちらは都道府県名と都道府県庁所在地が同じものが、北は青森県の青森から南は鹿児島県の鹿児島まで、28都道府県におよんでいる。地方別で考えれば中国地方は島根県の松江だけ、九州地方は沖縄県的那覇だけが同名ではないことに気づくはずである。

つまり19（47－28）の道県（さいたま市を含めて）の道県庁所在地を頭に入れば、すべてを頭に入れたことになるのである。

8. 一生の財産になる

元来、私は社会科が好きで力を入れている教科の一つである。そしてその中で極力覚えることは排除して、考えることを重視しながら学習を進めているのは昔も今もかわらない。しかしこの47都道府県については時間をかけても、九九のように丸ごと頭に入れることを奨励している。子どもの方も、あまり覚えろ覚えろといわない私が覚えておいた方がいいというからには、覚えておいた方がよいと感じるようである。

卒業生の中には4年生で都道府県を覚えることがきっかけで社会が好きになり中学校でも1番好きな教科の一つで、今でも続いているといったうれしい知らせをくれる子もいる。

つまりこれは一つのきっかけであるが、少々オーバーにいえば日本で生活するかぎりにおいては一生役立つ大切な知識であるといってもいいのではないのである。

たかが47都道府県であるが、いつ出会うかそしていつ覚えていくかで、その後がかかわるといってもいいほどの事象であり、大切に考えていきたいことのひとつと私は考えている。